

授業科目

学校栄養指導論II

担当教員名 笹川 トシ子	対象学年	3	対象学科	健栄
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	◎	◎	○	◎

授業の概要

講義では、小中学校の食に係る問題点の把握方法と指導方法を検討する。演習においては、児童生徒の集団における食の課題を解決する方法の一つとして授業を取り上げ、各自が課題に関するエビデンスに基づいた指導資料や指導案を作成し、模擬授業を行う。さらにその授業についてお互いに批評し指導案を修正する。

授業の目的

「栄養に関する高度な専門性」と「教育に関する資質」を併せ持ち、児童生徒、保護者及び地域の健康づくりに貢献できる栄養教諭の養成を目的とする。この科目では、管理栄養士養成科目で学んだ内容及び学校栄養指導論Iの講義内容をもとに、演習を通じて食に関する指導方法を修得する。

学習目標

1. 児童生徒が抱える食生活及び栄養上の問題点を把握し、解決のための方法を説明できる。
2. 把握した課題を個別指導、学級での指導、学校全体での指導に分けることができる。
3. 各学校の「食に関する指導の目標」を説明できる。
4. 教科等における食に関連する単元題材を抽出できる。
5. 食に関する指導を行う上での各学年における発達段階の特徴を説明できる。
6. 学級の実態に応じた食に関する指導内容の必要性について説明できる。
7. 科学的根拠に基づいた指導教材を収集し、発達段階に応じて作成できる。
8. 食に関する指導の授業終了時の児童生徒の姿を児童生徒の立場の文言で表現することができる。
9. 授業における導入・展開・終末のあり方や方法、指導案作成上の述語について説明できる。
10. 学級の実態に応じた食に関する指導の模擬授業のための指導案を構成できる。
11. 模擬授業の板書計画を作成できる。
12. 模擬授業の構想について説明し、意見を交換し、より良い指導案にすることができる。
13. 学級の実態に応じた食に関する指導の模擬授業を実施できる。
14. 模擬授業実施後、授業に関する課題等について話しあうことができる。
15. 模擬授業実施の反省や意見をもちに指導案の修正ができる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	オリエンテーション・集団内の食に係わる問題点の把握	講義	笹川 トシ子
2	把握した食に関わる問題点と指導方法の検討	講義・討議	笹川 トシ子
3	教科等における食に関わる単元題材の抽出(小学校)	演習(調査)	笹川 トシ子
4	教科等における食に関わる単元題材の抽出(中学校)	演習(調査)	笹川 トシ子
5	食に関する指導のための指導案作成の基本	講義	笹川 トシ子
6	指導案の作成、媒体の準備	演習(各自作成)	笹川 トシ子
7	指導案検討(1)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
8	模擬授業(特別活動、関連教科の模擬授業)・授業協議(1)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
9	指導案検討(2)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
10	模擬授業(特別活動、関連教科の模擬授業)・授業協議(2)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
11	指導案検討(3)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
12	模擬授業(特別活動、関連教科の模擬授業)・授業協議(3)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
13	指導案検討(4)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
14	模擬授業(特別活動、関連教科の模擬授業)・授業協議(4)	演習(発表・討議)	笹川 トシ子
15	まとめ	講義	笹川 トシ子

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	食に関する指導の手引ー第1次改訂版ー	文部科学省	株式会社東山書房	22年	1,200円	
その他の資料						

評価方法

作成した指導案、実施した模擬授業で評価する。

履修上の留意点

授業に積極的に参加する。

オフィスアワー・連絡先

研究室：F202a

連絡先：sasagawa @nuhw.ac.jp

授業に関する質問などは、メールアドレスまでご連絡ください。